

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 8 月 31 日 発行

第 18 号

発行人 校長 鈴木史良

自分の身体を“科学する”

—— 新垣先生をゲストティーチャーに、性について考える ——

8月24日(火)、本校保護者でもあるS先生をゲストティーチャーとしてお迎えし、中学部の性教育授業を実施しました。新垣先生は中学生にも分かりやすいスライドを用意し、それを見せながら、自分の身体を“科学する”という視点で、いのちをバトンタッチしていくメカニズムを説明してくださいました。遺伝子が次の世代に受け継がれていくという程度の知識は大人ならもち合わせているのですが、性が男性(オス)、女性(メス)と2つある理由を知って目からウロコの思いでした。

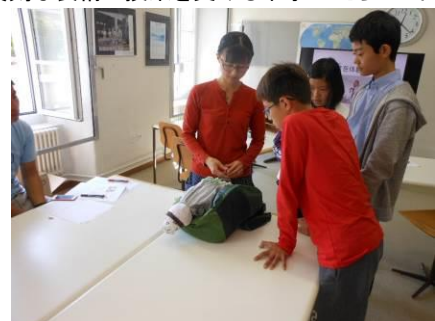
一人の子どものために男女の遺伝子が組み合わさります。すると子どもは親である男女2人の遺伝子とはちがう遺伝子をもつこととなります。そのことが病気や環境の変化に強くなり、進化につながっているそうです。病気や環境に強くなることは、それだけ多くの子孫を残すことができるということです。なるほど、もし人間がアダムだけから産まれていたとしたら、アダムの遺伝子をコピーしたクローン人間ばかりとなってしまうので、アダムとはちがう遺伝子をもったイブが必要だったわけですね。

次は、男女の遺伝子が組み合わさること、つまり「どうやって妊娠するの？」の話でした。生物の中には、魚類や両生類のように体外受精するもの、は虫類や哺乳類のように体内受精するものがあり、その例が紹介されました。続いて「人間はどうするの？」という話に移行し、先生から子どもたちに、「精子と卵子が出会って受精する場所は？」という問いが発せられました。3択の問題で、子宮か卵管か卵巣かのいずれかが正解でした。私は子宮かと思いましたが、正解は卵管です。男性器から女性器に放出された精子約2億個は、卵管までの長いマラソンが始まります。しかも3日間のうちにたどり着かなければ死んでしまうのです。またやっとたどり着いても、そこに卵巣からタイミングよく卵子がやってこなければ受精できません。1つの卵子と1つの精子が結びつくのはまさに奇跡的な確率と言えます。この世に生まれた人間はみな、こういう奇跡があったからこそ生まれてきているのだと実感しました。

受精した卵子は細胞分裂を繰り返しながら1週間かけて子宮にたどり着き、そこで赤ちゃんとして育っていきます。子どもたちは5, 6kgのリュックを前につけて妊婦のお腹の重さや動きにくさを体験したり、リュックの中から赤ちゃん人形を取りだし、へその緒や胎盤の存在を理解したりしました。最後



真剣な表情で授業を受ける中学生たち上・下



に、妊娠するのは大人だけではないこと、性行為は遊びではないこと、性感染症もあることなどを伺い、“自分の身体を科学する”時間を終了しました。

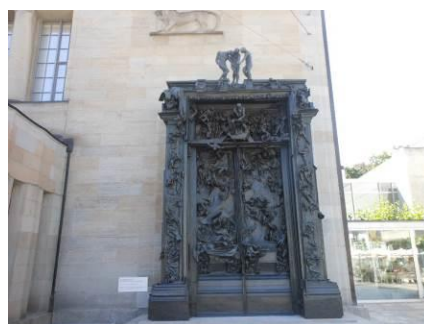
中学部、チューリッヒ市美術館へ

8月28日(金)の午後、中学部の生徒が美術の校外学習として、チューリッヒ市美術館を見学しました。同美術館は、13世紀から現代美術に及ぶ広範なコレクションを所蔵しています。生徒たちはまず2階の印象派モネの作品「睡蓮」を鑑賞しました。正面、左壁面、右壁面にそれぞれ趣きの違う大きな「睡蓮」の絵が展示され、柔らかで繊細なタッチに圧倒されました。

他にもゴッホ、セザンヌ、ピカソ、ダリ、マティス、シャガールら巨匠の作品があり、ホドラーやジャコメッティをはじめスイス人巨匠の作品も豊富です。中世のフレスコ画、ルネサンス期の絵画、現代美術と、まさに絵画のタイムトンネルを歩いているようでした。生徒たちはもとより、引率した教員にとっても多くの刺激を受けた美術館見学でした。



チューリッヒ市美術館正面玄関にて上・下



9月の主要予定

- 9月01日(火) 全校朝会 図書ボランティア
- 03日(水) JSタイム
- 04日(金) クラブ バザー練習 **Stadt Fest(～6日)**⇒4年に一度の市のお祭り
- 07日(月) 芝刈りボランティア
- 08日(火) クラブ
- 10日(木) JSタイム
- 12日(土) **保護者会バザー**
- 17日(木) JSタイム
- 18日(金) 持久走大会⑤⑥校時
- 21日(月) 中学部中間テスト(～24日)
- 24日(木) JSタイム
- 25日(金) クラブ
- 29日(火) クラブ
- 30日(水) 月例情報交換会 15:45～

